

紙面 拝見

昨年5月24日、川崎市民発の「ヘイトスピーチ解消法」が国会で成立した。同7月26日、「津久井やまゆり園」で殺傷事件が起こり、今年2月には小田原市の「生活保護なめんなよ」ジャンパー問題。さらに横浜市での「災害被災者いじめ問題」。これらはかつて福祉先進県と言われた神奈川県で起こった。何か福祉政策に問題があったのだろうか？ 何をもって「先進県」と評価されてきたのか？



いきいき福祉会専務理事

小川 泰子

取り組んできたのだろうか。また、外国人への差別問題から始まった「ヘイトスピーチ解消法」から何を考え、どのような変化があったのだろうか。

3月3日付一面の見出しにドキッとした。「相模原殺傷」「遺族に深くおわび」 植松被告、接見に応じる。「文字」となった植松聖被告の言葉を追いつながら何とも言えない不快感が走った。

真の「福祉先進県」へ

た。社会面の詳細記事を不安な気持ちで急いで追った。なぜなら、一面にはこのような「文字」があったからだ。「植松被告は面会に応じた理由について『自分の言葉で謝罪させていたきたい』と説明、『この言葉にうそ、偽りはありません。想像を超えた苦難の連続と知っているからです』と」

最近よく使われる「自分事と

して」では、どのような立ち位置の「自分」かである。私自身、あるいは家族、福祉従事者、福祉事業者、行政、立ち位置でこの記事の受け止めは違うかもしれない。しかし、一番恐れることは植松被告の「自己愛性パーソナリティー障害」ということで彼が発したこの言葉が「文字」となった時に、2度目の傷を負った人がいるのではないだろうか。

か？ 社会面には関係者のそうした戸惑いや憤りが書かれていた。事件は本当に根が深い、多くの問題を内在していて、すべての人に問われた「人権」問題だっただけに、今、「施設建て替え」で障がい当事者、行政や福祉関係者も意見が本音で交わされている混乱の状況下で、なぜこのタイミングで取材し、「記

記事を求める。そして「福祉先進県神奈川」とは、誰をも差別区別しない分断社会を強く批判する「人育て」の共育力がある県だということを現場に投げかける紙面を期待したい。

(おがわ・やすこ ラポール三ツ沢施設長。神奈川県非常勤講師。一般社団法人インクルーシブネットワークかながわ理事。横浜市港北区在住)